

<タイトル>
DX化と若者を活かした新たな町会の魅力づくり
<町会・自治会名>
南大沢町会
<自治会の取組内容>
<p><具体的施策></p> <p>1. 情報のデジタル化 町会ウェブサイト構築し、回覧板やポスター等で地域住民に提供されるローカル(地元独自の)な情報を、一般向け(公開情報)と会員向け(限定公開情報)に整理し、掲載している。 https://8choji.net/minamiosawa/</p> <p>2. 回覧のデジタル化 「南大沢町会 公式LINE」を開設し、従来のアナログ式の回覧に加え、デジタル式の回覧も可能にしている。 https://www.8choji.net/minamiosawa/line/</p> <p style="text-align: center;">————— ここから、2022年4月以降の取組み —————</p> <p>3. コミュニケーションのデジタル化(未加入住民との接点づくり) 町会に加入していない方でも、町会に集まる情報(会員限定情報は除く)に接することができるよう「南大沢町会 公式LINE」を積極的に公開する。チラシやポスターなどで、南大沢在住者および勤務者にお友だち登録を呼びかける。町会ウェブサイトに掲載した地域情報の更新をお知らせすると共に、メッセージで直接コミュニケーションを図ることで、地域住民との接点(窓口)を作り、町会を知り(認知)、興味を持っていただくきっかけを作る。</p> <p>4. 若者へ活躍場所の提供(町会の魅力を高める) 地域活性化に興味を持つ(次世代の町会を担う)地元の若い人々に、上記DX化システム運営を依頼する。(得意分野での役割提供)また、その若者たちを中心に、地域イベントを開催する地域の若者を積極的に受け入れ、イベントを町会ウェブサイトや町会公式LINEで広報するなど、後援という形でサポートする。更に、若者が運用するtwitter/Instagramといった拡散性の高いSNSで町会を広報してもらい、認知を高める。</p> <p>5. 地域住民情報基盤アプリの整備(予定) 地域住民が情報アクセスするデバイスはスマートフォンの割合が多いため、1つのアプリで、生活・イベント・商業・観光など様々な情報に連携可能な地域住民情報基盤スマートフォンアプリを整備する。</p>
<導入経緯>
<p><課題> 町会・自治会は、街路灯の管理、地域イベントや活動団体の支援から、児童や高齢者のみまもり、防災・災害といった有事対応など、住民の共助による地域生活の基盤を担ってきた。しかし、高齢化などにより会員減少が進み、このままだと地域生活基盤の崩壊が懸念される。</p> <p><原因></p> <p>①借家住まいの住民へ積極的に入会を勧める活動をしていない。 ②主に会員の高齢化が起因とされる「会員の減少→地域活動の減少→会の魅力の減少」より、会の魅力が低下している。 ③未入会の地域住民へ活動内容や入会意義が十分に伝わっていない。</p> <p><対策></p> <p>①開かれた町会・自治会を目指す(借家住まいの住民も積極的に勧誘する) ②会員を若返りさせ、魅力を高める活動を目指す(若者へ活動の場を提供する) ③町会が中心となり、平時でも有事でも活用できる地域情報基盤を整備する。(デジタル化による互助精神を誘発・醸成する仕組みづくり)</p>
<今後の課題>
<p>1. 実効性について 南大沢エリアは1丁目・2丁目南大沢町会、3～4丁目は自治会という構成である。また、南大沢駅を利用している住民の住居圏・生活圏は、別所・松木・上柚木・下柚木・鎌水・越野といった由木地区も含まれている。住民にとって本当に便利な情報を得るためには、居住圏の狭域(地元)から生活圏である中域(地域)情報までの、祭りやイベント、コミュニティといった情報を手に入れることができることが重要であり、そのためには地域の町会・自治会のシームレスな連携が必要であることが大きな課題であり、ここでも地域社会の活性化に興味を持つ若者の力が必要と考えている。</p> <p>2. 費用について ICT技術を活用した地域住民DX化整備推進には、行政による資金補助などの支援が課題である。</p>

参考
加入世帯数：200世帯